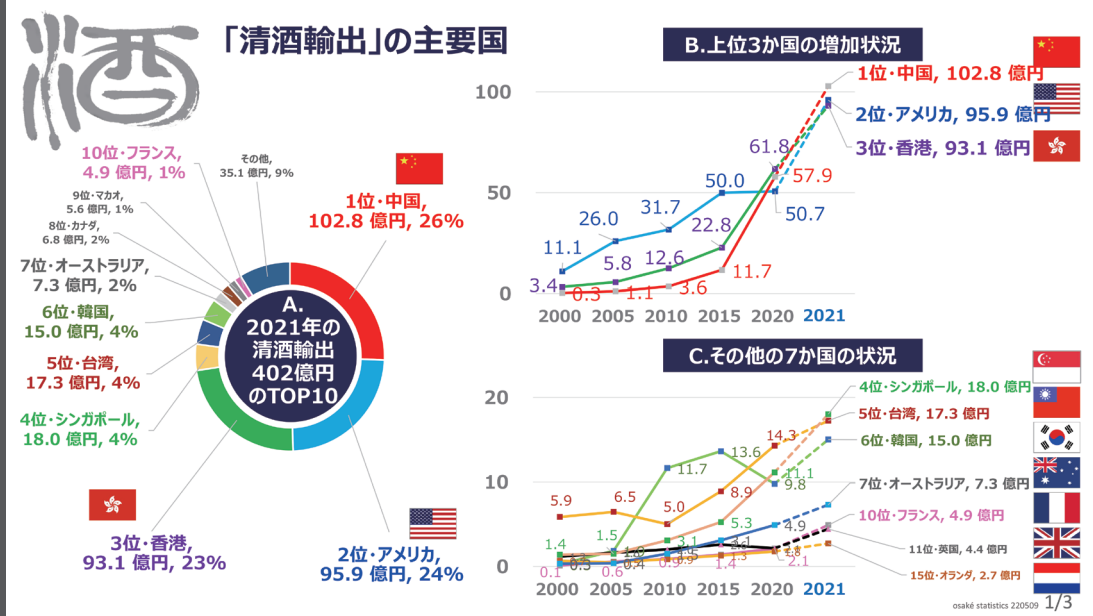


今回は、「お酒輸出主要 10 か国の 20 年の推移と、モンシノワの存在感」です。



「アメリカ・中国・香港・韓国・台湾・シンガポール・オーストラリア・英国・フランス・オランダ」は、日本産酒類の輸出のカギとなる国々。この10か国について、「2000年から2020年まで5年ごと」+「2021年」の輸出金額を調べてみました。

<清酒> 21世紀に入って長年の間、アメリカが輸出金額トップでしたが、2020年には香港がトップに。そして、2021年には中国がトップ、2位アメリカ、3位香港となりました。この3つの国・地域が世界の清酒の牽引力です。

韓国は、2019年の反日運動で輸出金額を減らしましたが、回復傾向にあります。一方その間に、シンガポールと台湾が4位・5位となりました。EUのなかでフランスが10位に入ったのは注目に値します。

<ウイスキー> 2000年ごろは唯一、台湾だけが日本ウイスキーを買ってくれる国でしたが、この10年で様変わり。1位・2位は中国・アメリカ。

フランスが3位、オランダが4位。オランダは、サントリーが、欧州向けを經由国にしている影響が強いですが、フランスはニッカやクラフトウイスキーの輸出が多いとみられます。

<焼酎> 「しょうちゅう」が、貿易統計で区分されたのは2008年なので、国別データはそれ以降しかありません。（貿易統計はなぜか、ひらがな表記）2008年以降、全体的な伸びがなく、グラフで見ると、香港や英国などは減少傾向です。総額も清酒やウイスキーの1/20以下（2021年）というなか、これも1位・2位は中国・アメリカ。

フランスの増加が目立ちます。Kura Masterで焼酎に力を入れていることなどが奏功しているのだと思います。

<中国の存在感> 日本の主力酒類である、清酒・ウイスキー・焼酎は、今やすべて、輸出先1位＝中国。

話は飛びますが、フランスのシャンパーニュ協会（CIVC）が毎年公表する輸出統計では、何年か前から「中国」ではなく、「モンシノワ」と記載されます。モンシノワ Mond Chinois とは Chinese World＝中国世界のこと。「中国に付度」して、香港も含めて計上しているのではないかと、と思います。

清酒の場合、中国向けは26%ですが、香港・マカオを含めた「モンシノワ」依存率は50%。中国が主張するように台湾も中国とカウントすれば、依存率54%にもなります。

日本酒、日本ウイスキー、日本焼酎を愛飲する人が中国で増えることは、素晴らしいことだと思いますが、一方で「カントリーリスク」はどの国にも存在することも事実です。隣国で大国である中国とは、リスクを避ける努力や工夫をしなければならない一方、輸出国の分散化もはからねばなりません。

(text = t.kita)

